

当面の検討の進め方

令和8年8月21日

マイルストーン達成に向けた主要課題とタスクフォース

- プラ戦略の進捗状況を踏まえ、今後の課題領域として、「設計」「排出・回収・処理」「需要・価値創出」の3つの柱に集約。
- 各課題に対応する3つのタスクフォースを設置し、他の制度・プラットフォームで検討されている内容と重複・齟齬がないような検討事項を設定し、重点的な検討を行うこととしたい。

	マイルストーン		課題領域	TF	主な検討事項
MS ①	2030年までにワンウェイプラスチック（容器包装等）を累積25%排出抑制		設計	TF 1 持続可能な 容器包装設計	・循環性設計の在り方の検討 ・リサイクル阻害要因となる素材・成分・形態の整理 ・循環性設計の普及・高度化方策の検討
MS ②	2025年製品デザインをリユース・リサイクル可能 事業者100%				
MS ③	2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル		排出・回収・処理	TF 2 プラスチック 資源徹底回収・サプライチェーンの最適化	・プラ資源の回収量拡大 ・リサイクルポテンシャルの高い製品類型・業態の整理 ・回収・選別・リサイクルのシステム高度化に向けた課題整理 ・優良事例の整理・横展開方策
MS ④	2035年までに使用済プラスチックを100%有効利用				
MS ⑤	2030年までに再生利用を倍増		需要・価値創出	TF 3 再生・バイオプラスチックの価値創出	・再生材・バイオプラの利用拡大に向けた検討 ・環境価値の見える化（GHG削減効果の評価手法の整理、クレジット化等の価値創出方策の検討） ・マスバランス方式等による価値表示の在り方の整理 ・プラスチック資源循環の進捗を評価する指標及びモニタリング手法の検討 2
MS ⑥	2030年までにバイオマスプラスチック類を約200万t導入				

TF1：プラスチック容器包装の持続可能設計タスクフォース

- 本TFでは、リサイクルの高度化・コスト抑制に向けて、特にプラ製容器包装について、目指すべき循環性設計の在り方を検討することを目的とする。
- マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクル技術双方の観点から、リサイクル工程や再生材の質を阻害するプラ製容器包装の素材・成分・形態を明らかにし、その阻害要因を改善するための方策等について検討を行う。

※敬称略、五十音順

座長

細田 衛士 東海大学学長補佐 政治経済学部経済学科 教授 （産構審プラスチック資源循環戦略WG 座長）

有識者

浅利 美鈴 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 教授

増井 慶次郎 国立研究開発法人産業技術総合研究所 次世代ものづくり実装研究センター 研究センター長

関係団体（参加者調整中）

印刷工業会（軟包装部会）（PAJ）

グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）

一般社団法人SusPla

一般社団法人 食品産業センター（JFIA）

全日本プラスチックリサイクル工業会（JPRA）

日本チェーンストア協会（JCSA）

日本プラスチック有効利用組合（NPY）

一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（JFA）

一般社団法人プラスチックサーキュラーエコノミー推進協会（PPCE）

一般社団法人 プラスチック循環利用協会（PWMI）

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（PPRC）

ケミカルリサイクル事業者

TF1：今年度TF1におけるアジェンダ案

TF1 開催回	アジェンダ項目	得られる示唆
第1回（9月） リサイクルにおける 阻害要因・優先課題の特定	● TF1について ➢ TF1の背景・位置づけと、目標及び今後の進め方	● 本年度のTF1の目標、進め方
	● 国内容器包装プラスチックの資源循環阻害要因の整理 ➢ リサイクル事業者へのアンケート・ヒアリング結果 ➢ 経済産業省実証（CPs 広域実証）で得られた課題 ➢ これまでの調査及び実証結果から得られる課題と論点整理 ➢ 関連事業（本年度）の紹介	● リサイクルプロセスにおける阻害要因の認識共有 ● 追加で確認すべき容器包装の種類や論点の補足 ● 実証で判明した課題（塩素・窒素分等）の優先度 ● 整理した論点と優先的に解決すべき課題
	● 今後のTF1の方針 ➢ 今後のヒアリングの実施方針（ブランドオーナー、容器包装製造事業者、業界団体を想定）	● ヒアリング対象や確認事項の整理 ● 追加すべき対象先やヒアリングの観点
	● 欧州における環境配慮設計 ➢ 欧州における容器包装の環境配慮設計ルール・指針の動向	● 国外制度で特に重視すべき配慮設計の要点 ● 国内の実態に適用する際に留意すべき点
第2回（1月頃） 阻害要因の対応策・方針案の検討	● 第1回の振り返り	● 第1回の論点整理に対する補足・修正意見の聴取
	● 国内容器包装プラスチックの製品設計側の対応 ➢ 他事業者ヒアリング結果報告 ➢ ヒアリング結果を踏まえた環境配慮設計の対応策の整理	● ヒアリング結果の整理と解釈の共有 ● 対応策の列挙と認識共有
	● 関連事業の成果共有 ➢ 本年度の関連事業で得られた定量データの成果共有	● 取り組むべき優先課題の整理
	● 次年度に向けた方針の提示	● 阻害要因の整理と改善方法検討の方針提示

TF2：プラスチック資源徹底回収・サプライチェーンの最適化タスクフォース

- 本TFでは、再生プラの供給拡大に向けて、家庭系・事業系それぞれのプラ資源の分別回収量の増大と、プラ資源の回収・選別・リサイクルに係るサプライチェーンの効率化・高度化等を目的とする。
- 自治体や事業者へのヒアリング調査等を基に、分別・再資源化の優良事例及びリサイクルポテンシャルの高いプラ製品の種類や事業者の業態等について整理を行う。

※敬称略、五十音順

座長

大塚 直 早稲田大学 法学学術院 教授

有識者

吉岡 敏明 東北大学大学院 環境科学研究科 研究科長・教授

中谷 隼 東京大学大学院 工学系研究科 准教授

関係団体（参加者調整中）

一般社団法人SusPla

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

公益社団法人 全国産業資源循環連合会

公益社団法人 全国都市清掃会議（全都清）

全日本プラスチックリサイクル工業会（JPRA）

東京都環境局資源循環推進部

一般社団法人 日本経済団体連合会（経団連）

日本商工会議所（JCCI）

日本プラスチック工業連盟（JPIF）

日本プラスチック有効利用組合（NPY）

公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会（容リ協）

一般社団法人プラスチックサーキュラーエコミー推進協会（PPCE）

一般社団法人 プラスチック循環利用協会（PWMI）

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（PPRC）

ケミカルリサイクル事業者

TF2：今年度TF2におけるアジェンダ案

TF2 開催回	アジェンダ項目	得られる示唆
第1回（9月頃） 産業系及び家庭系の 廃プラの回収及 び処理の現状整理	● TF2について ➢ TF2の背景・位置づけと、目標及び今後の進め方	・ 本年度のTF2の目標、進め方
	● <家庭系> 家庭系プラ資源の回収・リサイクルについて ➢ 分別協力率実証の結果と論点整理 ➢ 33条認定自治体の実態調査の結果	・ 現状の家庭系プラの回収・リサイクルの認識共有 ・ 自治体の取組状況からみた家庭系プラ回収量最大化の余地 ・ 回収・選別・リサイクル工程の最適化・高度化に向けた課題の整理 ・ 分別協力率向上、33条認定の活用に向けた課題の整理
	● <事業系> 中間処理事業者における処理の現状について ➢ 中間処理事業者へのアンケート・ヒアリング結果 ➢ これまでの調査及び実証結果から得られる課題と論点整理	・ 中間処理段階での現状と課題の認識共有 ・ 再資源化しやすい/できない廃プラスチックの特徴 ・ 中間処理事業者による対応と限界 ・ 回収量・再資源化の最大化に向けたボトルネックの所在（排出・需要段階）の確認
第2回（2月頃） プラ資源の分別回 収量拡大に向けた 対応策・方針案の 検討	● 今後のTF2の方針 ➢ <家庭系> 自治体へのヒアリング方針 ➢ <産業系> 排出事業者へのヒアリング方針 ➢ 第2回TF2の方針説明	・ ヒアリング対象（排出事業者・自治体）や質問の妥当性 ・ 追加すべき対象先やヒアリングの観点
	● 第1回の振り返り	・ 第1回の論点整理に対する補足・修正意見の聴取
	● プラスチック資源の回収量最大化に向けた課題の整理 ➢ 排出事業者・自治体へのヒアリング結果報告 ➢ ヒアリング結果を踏まえた回収拡大の対応策の整理 ➢ 再生プラスチックのサプライチェーンの最適化の整理	・ ヒアリング結果の整理と解釈の共有 ・ 産業系・家庭系それぞれの対応策の列挙と認識共有 ・ 取り組むべき優先順位の整理
	● 次年度に向けた方針の提示	・ 次年度の取組方針・重点テーマへの合意 ・ 継続的に検討すべき論点・課題の確認

TF3：再生プラスチック・バイオプラスチックの価値創出タスクフォース

- 本TFでは、石油由来のプラスチックに比べて価格の高い再生プラスチックやバイオプラスチックについて、値差を縮小すべく、再生プラスチックやバイオプラスチックによる温室効果ガス削減効果のクレジット化、マ
スバランス方式による価値表示の在り方などについて整理を行う。
- また、今後のプラスチック資源循環の進捗を評価する指標やモニタリング方法の検討を行う。

※敬称略、五十音順

座長

橋本 征二 立命館大学 理工学部環境都市工学科 教授

有識者

菊池 康紀 東京大学未来ビジョン研究センター 教授

酒井 伸一 公益財団法人京都高度技術研究所副所長（中環審プラスチック資源循環小委員会委員長）

関係団体（参加者調整中）

一般社団法人エシカル協会

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）

一般社団法人SusPla

一般社団法人 日本化学工業協会（日化協）

公益財団法人日本環境協会（JEA）

一般社団法人日本バイオプラスチック協会（JBPA）

日本プラスチック工業連盟（JPIF）

一般社団法人日本有機資源協会（JORA）

一般社団法人 プラスチック循環利用協会（PWMI）

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（PPRC）

ケミカルリサイクル事業者

TF3：今年度TF3におけるアジェンダ案

TF3 開催回	アジェンダ項目	得られる示唆
第1回（9月） 環境価値創出における課題・施策の検討	● TF3について ➢ TF3の背景・位置づけと、目標及び今後の進め方	● 本年度のTF3の目標、進め方
	● 再生プラ・バイオプラの価値創出に向けた検討・整理 ➢ 再生材・バイオプラスチックの環境価値創出策の検討 － コンプライアンスクレジット・ボランタリークレジットの活用状況 ➢ 消費者理解を通じた環境価値創出策の検討 － マスバランス方式等による価値表示の在り方の整理	● 環境価値創出に向けた課題の認識共有 ● 環境価値創出に向けた追加施策の補足 ● 整理結果を踏まえた価値創出策の検討
	● プラスチック資源循環の進捗を評価する指標及びモニタリング手法の検討 ➢ 既存の各種指標・データの整理 ➢ 追加的に必要なデータの検討	● 国内循環・輸出の現状把握 ● 整理結果を踏まえた追加的なデータ収集の検討
	● 今後のTF3の方針 ➢ 今後の検討・ヒアリングの実施方針	● 検討・ヒアリング実施方針の確認
第2回（2月頃） 環境価値創出に向けた施策・方針案の検討	● 第1回の振り返り	● 第1回の論点整理に対する補足・修正意見の聴取
	● 再生プラ・バイオプラの価値創出に向けた検討・整理 ➢ 検討結果（クレジットの活用、価値表示の在り方）報告 ➢ 検討結果を踏まえた環境価値創出策の整理	● 検討結果の整理・共有 ● 環境価値創出策の列挙と認識共有
	● プラスチック資源循環の進捗を評価する指標及びモニタリング手法の検討	● 指標案及びモニタリング手法案
	● 次年度に向けた方針の提示	● 課題の整理と改善方法検討の方針提示

今後のスケジュール案

- 各TFをR 8 年度内に 2 回開催し、そこでの議論の成果を年度末の合同会議で集約し、今後の施策の方向性を取りまとめることとしたい。

